

市の子どもたちの体力・運動能力等の傾向と課題を分析 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果概要

「平成25年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」が、本年度、市内の全小・中学校で行われました。市教育委員会では、今後の教育施策や教育活動に役立てるため、児童・生徒の体力・運動能力、運動習慣等をこのたび分析しましたので報告します。



調査結果から市内小・中学校においては次のような傾向があることが分かりました。
なお、文中の「ほとんど」「わずかに」などの考察の表現は文部科学省の基準により表現しています。(表1)

傾向と課題

【体格】

小・中学生とも、身長、体重、座高、肥満またはやせている傾向について、全国や長野県とほとんど差が見られませんでした。
肥満またはやせている傾向については、小学生は9割以上が正常の範囲内であり、全国や長野県よ

調査の概要

- 調査の名称 平成25年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査
- 実施期間 平成25年4月から7月(各学校で実施)
- 実施学年 小学校5年生(10校916人)
中学校2年生(7校894人)
- 調査の内容
ア 実技に関する調査
小学校:8種目(握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ)
中学校:8種目(握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走(20mシャトルラン)、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ)
※中学生は、持久走か20mシャトルランのどちらかを選択
イ 運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

●考察の表現について(文部科学省の基準による)(表1)

本文中の考察の表現は、全国や長野県の平均値や回答率と比べた時の市の結果の値がどれ位の位置にあるかを表現しています。

例えば体力合計点の場合、全国平均値と比較して安曇野市の結果との差が±0.5点未満の場合「全国とほとんど差が見られなかった」と表現しています。

○体力合計点(点)

点数	表現
±0.5点未満の幅	ほとんど差が見られなかった
±0.5~1点未満	わずかに高かった、低かった
±1点以上	高かった、低かった

○質問紙調査の回答率(%)

回答率	表現
±1%未満の幅	ほとんど差が見られなかった
±1%以上~±2%未満	わずかに高かった、低かった
±2%以上	高かった、低かった

●実技に関する調査(8種目)(図1)



1 動きを持続する能力(ねばり強さ)
【測定種目】
上体おこし、シャトルラン(持久走)



2 タイミングの良さ
【測定種目】
反復横とび、立ち幅とび、ソフトボール投げ(ハンドボール投げ)



3 力強さ
【測定種目】
握力、上体起こし、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ(ハンドボール投げ)



4 体の柔らかさ
【測定種目】
長座体前屈



5 すばやさ
【測定種目】
反復横とび、50m走

り良い傾向が見られました。また、中学生は9割近くが正常の範囲内であり、全国や長野県とほとんど差が見られませんでした。

【体力・運動能力】

実技に関する調査(8種目)(図1)を「体力の5つの要素」から体力合計点(以下、T得点)(※)などの指標を分析しました。

(※)体力合計点(T得点)
全国平均値(50点)に対する相対的な位置を示す。

①小学校の傾向と課題

男女とも「力強さ」や「タイミングの良さ」などに課題が見られます。
T得点は、男子は全国や長野県とほとんど差が見られませんでした。女子は全国よりわずかに低く、長野県とほとんど差が見られませんでした。

②中学校の傾向と課題

男女とも、「動きを持続する能力(ねばり強さ)」や「タイミングの良さ」などに課題が見られます。

す。

T得点は、男子は全国や長野県よりわずかに低く、女子は全国より低かったが、長野県とほとんど差が見られませんでした。

③小・中学校の共通傾向と課題

体力は長野県と全体的に同じ傾向が見られますが、全国と比較すると、「動きを持続する能力(ねばり強さ)」や「力強さ」、「タイミングの良さ」などに改善が求められる、総合的に体力を向上させていく必要があると思われます。